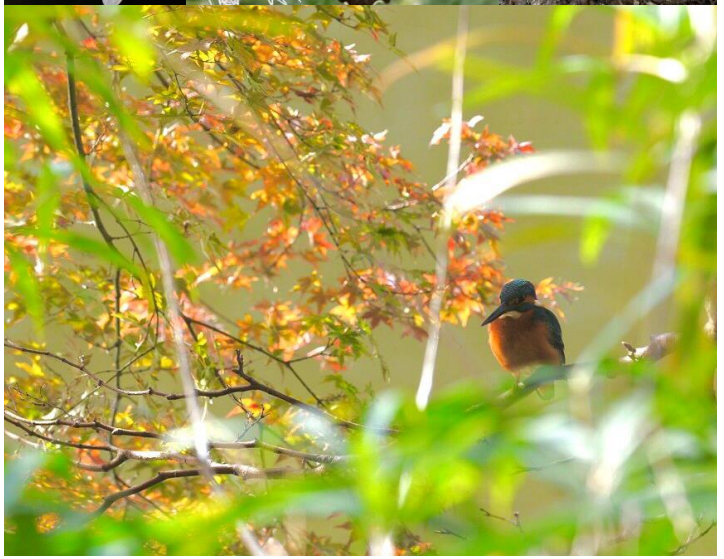
シンポジウム

かけがえのない自然を活かそう！
明石公園の未来を考える

明石公園の魅力とは？
明石駅に隣接する、豊かな自然が残る、子どもも大人も憩える遊べる場。
みんなが、心地よく過ごせる公園とは？
これからの活用方法、保全方法とは？
ともに考え、次世代につなぎましょう。



講演　木と石垣は仲よし

法貴弥貴
（環境造園研究家）

報告
・市民とともにスマホで明石公園の植物調査
　明石高校 (理数探究類型のグループ)

・明石公園は市民の憩いの場

明石市
泉房穂市長

シンポジウム　かけがえのない明石公園の自然とは何か？

植　物
小林禧樹

昆　虫
奥津晶彦

野鳥&環境学習
丸谷聡子

コーディネーター
松本　誠

開催日　2022年 4 月 3 日（日）

時　間　開会/13時30分～16時30分

参加費　無料　事前申し込み不要（定員100名）

会　場　アスピア明石北館7階　ウィズあかし704

◆主催 / 明石公園の自然を次世代につなぐ会
◆後援 / 明石市、明石市教育委員会（予定）
◆連絡先 〒673-0065　明石市大久保町西島439-5
☎080-3860-1487（丸谷）　FAX:078-914-8039
E-mail：info@akashikoen-mirai.org
https://akashikoen-mirai.org

QRコードで
ホームページへ

明石駅前の都市中心部にありながら明石城の史跡によって貴重な生態系が守られてきた県立明石公園の自然が、いまピンチにさらされています。お城の石垣保全と石垣の景観をアピールするため県による樹木の伐採が大規模に進められ、植物、昆虫、野鳥などの生息環境が危機に瀕しています。明石公園には絶滅危惧種も多く、生物多様性が高く、豊かな生態系が残された全国でも極めて稀な都市公園です。

すでに4年間で1688本の樹木が伐採され、さらなる伐採と公園の整備と活用を名目にした開発で、自然の一層の損壊が危惧されます。危機感を感じた生態系を調査研究してきた専門家や市民が、伐採の中断と整備計画の見直しを求めて昨年秋から兵庫県や明石市に訴えています。

自然と歴史と人が共生する公園として未来へ受け渡していこうとする人たちが「明石公園の自然を次世代につなぐ会」をつくり、シンポジウムを開催します。

明石公園の未来を考えるシンポジウム

かけがえのない自然を活かそう！

○開会挨拶　　経過報告　　明石公園の自然を次世代につなぐ会　代表・小林禧樹
○基調講演　　木と石垣は仲よし　　庭師・環境造園研究家　法貴弥貴
○報　　告　　◇市民とともにスマホで明石公園の植物調査　明石高校（理数探究類型グループ）
　　◇明石公園は市民の憩いの場　　明石市　泉房穂市長

○シンポジウム　　「かけがえのない明石公園の自然」とは何か？

◇パネリスト

植物	小林禧樹	兵庫県植物誌研究会代表、明石公園の自然を次世代につなぐ会代表
昆虫	奥津晶彦	大阪昆虫同好会、里山からの手紙代表
野鳥	丸谷聡子	日本野鳥の会ひょうご副代表、環境教育コーディネーター
木と石垣	法貴弥貴	庭師・環境造園研究家

◇コーディネーター　　松本　誠（市民まちづくり研究所）

○閉会の挨拶

主催者　明石公園の自然を次世代につなぐ会
▼詳しくはＨＰをご覧ください
ホームページ　https://akashikoen-mirai.org

県立明石公園の豆知識

面積区域　54.8㌶（54.8万㎡）
指定等　国指定史跡（剛の池含む南半分27.4㌶）
　　国指定重要文化財（櫓､石垣､堀の遺構等）
　　日本都市公園100選、日本さくら名所100選
　　日本名城100選、日本の歴史公園100選
公園内の自然　250種類ほどの植物が生育、多くの野鳥、昆虫が生息

明石公園の歩み

1617	初代明石藩主、小笠原忠真が入城
1619	人丸山の地形を活かして築城
1974	明治政府の廃城令により廃城
1883	明石町内の有志により民営明石公園開園
1918	兵庫県が御料地を借り受けて県立公園開園
1945	明石空襲で避難民多数が被災死傷
1948	県立明石公園事務所が発足し、戦災復興開始
1995	阪神・淡路大震災で櫓､石垣など被災､一部崩壊
2000	5年間の修復工事完了、本丸長塀も復元
2019	築城400周年｡ライトアップ。前年の2018年から樹木伐採開始

敷地の半分が「史跡公園」　施設で史跡が脅かされる？